

(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会について

1 概要

戦後71年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、市民に戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとするため、新たに(仮称)平和資料館を設置する。

そこで、施設のあり方や展示内容等、平和資料館の基本的な方向性について、有識者や戦争を体験された方、他の公立の平和資料館の関係者等から意見をいただく「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」を本年1月から開催した。

懇話会は5回開催し、活発な意見交換を行い、市が委員の意見を整理した。

なお、第1回から4回の議論については総務財政委員会で報告済みである。

2 懇話会の開催実績等

(1) 第1回の懇話会(1月18日)では、

- ・他館のコンセプト事例及びコンセプトに即した機能事例、北九州市の戦前の歴史
- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所(案)

について、事務局からの説明を行った。

(2) 第2回の懇話会(2月15日)では、(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所等について活発な意見交換を行った。

(3) 第3回の懇話会(3月24日)では、建設場所の候補である勝山公園を視察するとともに、(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所等について活発な意見交換を行った。

(4) 第4回の懇話会(4月18日)では、市民団体等へのヒアリングを行うとともに、これまでの委員の意見を参考に、市がまとめた「(仮称)平和資料館のあり方(案)」を基に、活発な意見交換を行った。また、建設場所については「勝山公園の中央図書館横の駐車場付近」が相応しいと意見をまとめた。

(5) 第5回の懇話会(5月24日)では、「(仮称)平和資料館のあり方(案)」を基に、活発な意見交換を行い、委員の意見を整理した(懇話会は今回で終了)。

3 今後の取り組み

議会からのご提案などを踏まえつつ、懇話会での意見を参考に、展示コンセプトや建設場所等をまとめた(仮称)平和資料館の基本計画をまとめる。

《資料》

- | | |
|------------------|---------|
| ・懇話会委員名簿 | 別紙1のとおり |
| ・懇話会の進め方(意見聴取事項) | 別紙2のとおり |
| ・第5回懇話会 委員の主な意見 | 別紙3のとおり |
| ・懇話会について | 別紙4のとおり |

(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会委員名簿

| 氏名 | 所属等 |
|--------|-----------------------------------|
| 天川 悦子 | 北九州童謡・唱歌かたりべの会会長 |
| 上田 眞奈美 | 北九州市PTA協議会副会長 |
| 甲木 正子 | 西日本新聞社本社企画開発部長 |
| 後藤 みな子 | 北九州市文学協会理事長 |
| 佐方 はるみ | 元市立小学校長(九州女子大学人間科学部特任教授) |
| 戸高 一成 | 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)館長 |
| 中村 明俊 | 長崎原爆資料館館長 |
| 原田 純子 | 南九州市知覧特攻平和会館主査 |
| 南 博 | 北九州市立大学地域戦略研究所教授 |
| 三好 正一 | 北九州市遺族会連合会会長 |
| 山本 みさと | 北九州市立大学学生 (太鼓と平和を考える学生連絡協議会代表) |

(敬称略・50音順)

(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会の進め方

1月 18日
(水)

第1回 懇話会

(議題)

- ・他館のコンセプト事例及び・コンセプトに即した機能事例
- ・北九州市の戦前の歴史
- ・(仮称)平和資料館のコンセプト・建設場所(案) についての説明



2月 15日
(水)

第2回 懇話会

(議題)

- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等・建設場所についての意見聴取



3月 24日
(金)

第3回 懇話会

(議題)

- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等・建設場所についての意見聴取



4月 18日
(火)

第4回 懇話会

(議題)

- ・市民団体等へのヒアリング
- ・(仮称)平和資料館の展示コンセプト・内容等・建設場所についての意見聴取



5月 24日
(水)

第5回 懇話会

(議題)

- ・委員意見の最終まとめ

第5回「(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会」での委員の主な意見
(平成29年5月24日(水)開催)

【(仮称)平和資料館に対する意見】

- 後世の人たちに、平和がいかに大切かということ、これから先にも伝えていかなければならない。
- 戦争を知らない世代がほとんどとなった時に、歴史をいかに正しく、長く伝えていくことが重要である。
- どんな巨大な施設を作ったところで、歴史の方が大きい。小さくてもきちんとしたものを作って、来た人が本当に印象深く、気持ちの中に深く、記憶をとどめるようなものを作れば、大きな成果をあげることができる。
- 資料館に子どもたちが訪れて学習してくれること、海外や日本中の方が色々なことを感じてくれることが資料館の目的である。
- 高校生や大学生等、今後を担っていく若い世代が、年代が違ってても戦争や平和について考えることができる資料館になれば良い。
- 資料館ができれば、修学旅行で行く長崎原爆資料館と北九州市とが、より身近になって、子どもたちが戦争について、話し、感じるができるようになる。

【その他】

- 市民から資料を寄贈してもらう場合、その資料はどういう人が、何時どんな状況で使っていた等、ヒアリングをして記録する必要がある。後で聞くことができなくなるかもしれないので、来歴等はきちんと残しておくべきだ。
- 寄贈を受けた資料は展示しない場合もあることを市民に伝えるべきだ。
- 資料館に寄付をした人の名前を紹介する等、市民が2度、3度と来館することに繋がるようなことも考える必要ではないか。